

2025年5月22日

平成22年4月から令和7年3月までに、針刺し切創により受傷された職員の方へ

当センターでは、毎年針刺しおよびその他の鋭利器材に関連した損傷（以下、針刺し切創）による血液・体液曝露報告件数を集計しています。今回、当センターにおける針刺し切創報告の分析から過少報告の可能性を検証するため研究を実施しております。この研究は、既に提出された既存の針刺し切創報告書をもとに行われるものですが、この案内をお読みになりご自身がこの研究の対象にあたると思われる方のなかで、ご質問がある場合、またはこの研究に「自身の情報を使用されたくない」とお思いになりましたら、2025年5月31日までに遠慮なく下記の担当者までご連絡を下さい。この研究へのご参加に同意をいただいた後や既にデータを収集した後であっても同意の撤回は可能です。また、研究への参加・不参加に関わらず、対象の皆様が不利益を被ることはございません。

**【研究対象者】**

平成22年4月1日から令和7年3月31日の期間における針刺し切創の受傷者

**【研究課題名】**

当センターにおける針刺し切創の現状と今後の課題  
—過去の針刺し切創報告書の分析から過少報告の可能性を検証する—

**【研究責任者】**

群馬県立心臓血管センター 手術室  
感染管理認定看護師（特定行為研修修了） 齋藤 由貴

**【研究の目的】**

医療現場では日常的に注射針やメスなどの鋭利器材が使用されており、当センターでこれらの器材が原因で医療従事者が受傷する事例は、平成22年度から令和6年度までの期間に121件報告されています。針刺し切創による血液体液曝露は、血液媒介病原体による職業感染を生じる可能性が高く、予防対策を講じる必要があります。

針刺し切創の予防対策を適切に講じるためには、それらの発生状況を正確に把握する必要がありますが、報告は曝露者の自己申告による場合が多く過少報告の可能性が示唆された先行研究もあります。実際に、令和6年度の針刺し切創報告書では、新規発生件数3件のうち曝露源の患者が感染症検査陽性であった件数が2件であり、感染症検査が陽性の患者に限った過少報告の可能性が考えられました。

本研究では、当センターにおける針刺し切創の現状分析から過少報告の可能性を検証し、今後の課題の考察と現状に即した具体的な針刺し切創予防対策を検討していきたいと思っております。

#### 【利用する情報・資料】

針刺し切創による受傷後、感染対策室へ提出された既存の「エピネット日本版 A：針刺し切創報告書」および「エピネット日本版 AO：針刺し・切創報告書/手術部用」から、以下のデータを収集致します。

- ・事例の発生状況（年別、月別、部門・職種別、経験年数別、場所別、原因別、器材別）
- ・曝露血液の感染症検査陽性率の内訳
- ・受傷者の HBs 抗体保有率

#### 【個人情報の取り扱い】

収集・分析したデータは氏名、所属部署などの個人を特定できるような状態で使用することはありません。研究の成果を学会等で公表する場合には、個人が特定できないような形で使用致します。

#### 【問い合わせ】

心臓血管センター看護部 手術室

感染管理特定認定看護師 齋藤 由貴（内線：3360）